

アートの窓



美術館では、県内在住または出身で、意欲的に芸術活動に励んでいる若手作家の『次世代の表現』を紹介する展覧会を開催します。参加する9名の作家を紹介します。

秋山はるか、陶土でその世界を形づくり、手探りで作り出していく世界は、不思議な存在感があります。井関さおりは、墨とアクリル絵具を使い、和風の

掛軸の形で表現し、根源的な人間の持つ問題を深く追究しようとしています。菊

谷昌江は、誰も見たことのない超現実的な世界を平面作品として展開し、その世界は、現代の迷宮を私たちに指し示しています。川田

英二は、主として版画を手がけ、日常生活の中にある何気ない植物や石ころから、繊細な感性で美を掬い取り、表現しています。久

保菜月は、和紙にアクリル

絵具を用いて絵画を描き、動物をモチーフに描きながら生きるこの不条理を表現しています。小松サヤ

は、アクリル絵具で食物をカラーージュ作品のように描き、私たちの身の回りにあふれている食物やその情報について考えさせます。杉本春奈は、写真を表現手段とし、写真を撮ることで自らの可能性を拡げています。高木友香は、立体によるインスタレーション（展示空間全体を作品にする表現手法）の作家です。描写力を生かし、思いを伝えようとする意志が現れています。土方佐代香は、油絵作家で、さまざまな場所

で出会った光景を豊かな色彩で表現し、そこには白昼夢のような世界が広がっています。このように、出品作家9名は、それぞれの表現形式で、今を生きる問題と向き合い、独自の表現方法を展開してきました。これらの意欲的な作品を、ぜひ、ご覧ください。

香美アートアニュアルvol.1 一次世代アーティストの表現

8月20日(火)~9月8日(日)



▲Fountain/油彩・土方佐代香

このように、出品作家9名は、それぞれの表現形式で、今を生きる問題と向き合い、独自の表現方法を展開してきました。これらの意欲的な作品を、ぜひ、ご覧ください。

(館長・都築房子)

香美市文芸



◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

早苗取る一人一人の束のくせ
種袋振って瑞穂の風案す
野良仕事終へたる母に岩清水
折りにも似て合歡の木の葉を閉じる
我が接ぎし枇杷の初生り供えけり
木天蓼の白い葉まさに花のごこと
くちなしに姉を偲べば只眞白
峡の空燕の声を高く聞く
山陰の小川の鯉に花菖蒲
カーテンの影のうねりや夏めける
湖に雲押しうつる立夏かな
梅雨もよし籠りて味わう句歌作り
夕菅にいつとき宿る夕日かな

◆俳句会◆

町の灯の遠くにありて螢の夜
桐の花母の呼ぶ声聞こえきし
時の日や野に百姓の腹時計
杉山を梳き登りゆく梅雨の霧
かにかくに戦後は遙か枇杷熟るる
奥土佐は鳥居の多し栗の花
あぢさゐの気なるひとつ揺れてをり
梅雨入りと聞きて荷物を持ち直し
店頭に並び青梅買手待つ

公文 春紀
高橋 章
北村 幸子
西川 常夫
甲藤 卓雄
野崎 典子
北村 里子
小野川 順子
前田 芳子

梅雨冷に終いし寝具急ぎ出す
汚れなき衣掛け蛇の棲まひかな
かほりよき新茶や警察署長室
水車舞ふ紫陽花の彩和みたり
退院を待ちつつ伸びし葵かな
うすら日をまとひ風蘭香を放つ
夜釣船明けの光を曳き戻る
語る事ありて語れず夏落葉
空梅雨にぎらぎら睨む鬼瓦
鯉幟四万十川の風食みて
居酒屋の盛塩高く半夏生

中内ゆかり
竹内 ろ草
佐竹 洋子
佐藤 幸
利根 弘子
古川 信子
小松 愛子
中澤 美晴
山崎 鈴子
宮地 亀好
吉田 芳
乾 真紀子
奥宮さとみ
久保内鏡子
黒岩千英子
小松 隆之
小松 完
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
間崎 和代
森本 之子
前田 智女
山崎かずみ
山中 晶子
山中 瑞輝
山中 明石

◆かほく俳句会◆

山里は水から昏れてえこの花
目借時あの世この世の境かな
袋かけ生きる力を指に籠め
梅雨満月雲間に照らす誕生日
国道と云ふは名ばかり草茂る
枇杷熟れて誰彼なしに配りけり
水恋鳥家裏の山を忘れぬ
髪切ると決めて出て行く街薄暑
階段の一步の奈落五月闇
畔草を刈り飛ばしたる無位無冠
初採りの胡瓜の棘のいとほしく
風治め蛙は闇を囁しけり
万緑に沈む温泉旅の宿
藻の花や水くぐるると昏れてをり
納屋の戸を一枚開けて青田風
根詰めてもう戦へぬ草刈女
更衣して生徒らの顔まぶし

山中 明石

吉井勇記念館だより

溪鬼荘ライトアップ 田舎料理バイキング

猪野々地区の料理を食べに来ませんか。猪野々地区で収穫した農産物の販売も行います。夜間開館や溪鬼荘ライトアップ・敷地内竹キヤンドル・松明点灯などもお楽しみいただけます。

【日時】8月17日(土) 17時~
田舎料理食べ放題※要予約 大人千円、小学生以下500円

特別展記念講演会

館内にて開催中の特別展『学徒兵・木村久夫、とどけ！命の歌声』展を記念して講演会を開催します。

【日時】8月24日(土) 13時30分~15時
※12時50分から学芸員による館内・溪鬼荘の解説(要入館料)
【場所】猪野々集会所(記)

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

◆土佐山田町俳句会◆

諸植系る天誅組の墓の前
「ゆる抜き」や女夫が池の濁り鮎
家中の音聞いてをり夏の風邪
花槐一緒に渡ろうこの橋を
長梅雨の鳥居の奥の能舞台
奥土佐の山吹きぬけよ青嵐
義太夫の語るお婉や額の花
愛らしい乙女の口紅や春人參
目立つのが好きでござんす立葵
うす紅の薔薇一輪にそつとキス
青空にぼつこり浮いた夏の雲
水甕に蛍来ている美美子の忌
燕の子商店街の貸店舗

◆今月のキラリ◆

夕菅にいつとき宿る夕日かな
夕菅は夏の夕方淡黄色の花を咲かせ、翌朝にはしほむ。夏の残照の中、きらきら揺れて光る夕菅を見て、短命を愛おしむのである。

◆俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
▼かい書で、住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】総務課内広報委員会事務局(俳句・短歌係) 〒782-18501(住所記載不要) FAX 53・5958